

第 32 号の刊行にあたって

学園長 島崎 弘幸

「鯉淵学園 教育研究報告」第 32 号をお届けいたします。令和 3 年度も同 2 年度に続き COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) の影響を大きく受けた年でした。学生の教育活動はもちろんですが、学校運営においても先生方は多忙を極めました。就職指導、学園祭指導 (鯉淵三大祭り)、オープンキャンパス (学生募集) 等々、教員そして事務職員の貢献は例年に増して大きいものでした。そんな多忙な日々の中で本誌 (第 32 号) は、総説 1 報、報文 3 報、事例報告など合計 7 報が掲載されており、先生方の教育や研究に対する熱い思いを感じることができ、学園長として喜びと誇らしさを感じます。

本誌は、2013 年に第 29 号を発行した後、2020 年まで学内事情から休刊していました。その後、学内有志の熱い思いから再び発行の機運が高まり、1 年間の準備を経て 2020 年 3 月に第 30 号を発行できました。それから早 3 年、今年も優れた論文を多数採択し、第 32 号が発行できたことは嬉しいかぎりです。野口委員長を中心とする編集委員会で、投稿論文の厳正な査読を行い、記述内容だけでなく誤字の訂正まで行うことにより、格調の高い論文誌になっています。学内外の多くの皆様に自信を持ってお薦めすると共に、ご利用いただけることを願っております。

浅津論文では、鯉淵学園の栄養士養成課程を中心に発足 50 年の歩みが報告されています。詳細は原著を読んで頂きますが、ここでは「鯉淵学園」の名

称の由来について簡単に触れておきます。本校は、全国農業会「高等農業講習所」として 1945 年 (昭和 20 年) に発足しました。その後、1951 年に校名が「鯉淵学園」に改称されました。その由来は、初代学園長 小出満二による「全国から集い来る若人を龍門の滝を登らんとする淵に群れ成す鯉」に例えたことによるものです¹⁾。「鯉淵学園」と言う学校名は、本校の建学の精神を現すものです。これからも建学の理念を受け継ぎ、全国から優秀な若者を本校に集め高い理想の下に教育を行って行きたいと思っております。

なお、本校の経営母体は、1948 年 (昭和 23 年) に農林省の助成で発足した財団法人「農民教育協会」です。現在の法人名は「公益財団法人 農民教育協会」ですが、この度、更に新しい法人名「公益財団法人 鯉淵学園」として、2022 年 4 月 1 日から展開することになりました。校名は「鯉淵学園農業栄養専門学校」で変わりありません。これからも私たち教職員は、新しい時代の淵に集い、龍門の滝を元氣よく登る若鯉を支え、育てることに全力を尽くしてまいります。本誌「鯉淵学園 教育研究報告」ともども、新生「公益財団法人 鯉淵学園」をこれまで同様に、ご支援ご鞭撻下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

1) 井上隆弘 (2013), 鯉淵学園の思い出. 鯉淵学園 教育研究報告 29: 62-72.